

# みつけた!

福岡県保育協会通信



By mutual confidence and mutual aid,  
 Great deeds are done, and great discoveries made;  
 相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなさる。  
 —ギリシアの詩人 ホメロス

福岡県保育所（園）長研修会 報告 -----	2
京築ブロック保育研究大会 報告 -----	3
遠賀・中間地区保育協会研修会 報告 -----	4・5
新園紹介（双葉保育園） -----	6
コラム 福岡県立大学 福田恭介 -----	7
筑豊地区公立部会立ち上げにあたって -----	8
新任保育士紹介 -----	9
第1回 九州保育三団体研究大会のお知らせ -----	10
コラム 生の松原子どもスコレ 山下麻里 -----	11
編集後記 -----	12



## 平成 25 年度 福岡県保育所（園）長研修会研修報告

慌ただしい小雨降る師走の平成25年12月9日から10日にかけて、今年度の福岡県保育所（園）長研修会が西鉄グランドホテルにて開催されました。「子ども・子育て関連三法」の本格実施を前に、会場内は260名の参加者の熱い想いに包まれ、2日間の研修が行われました。初日は、福岡県福祉労働部 子育て支援課 保育係長による行政説明から開始されました。現在の県の子育て支援の取組や指導監査の現状などをお話いただきました。続いて筑波大学医学医療系教授の安梅勅江先生による「子育て支援エンパワーメント～根拠に基づく保育実践～」と題して講演が行われました。「子育てエンパワーメント」とは、子どもの持っている「育つ力」を最大限引き出し、子どもを元気にすることであり、保護者の「子育て力」を最大限引き出し、保護者を元気にすることである。と「子育てエンパワーメント」についてわかりやすく説明をしていただいた。また、保育現場には説明責任があり、科学的根拠をもとに説明していくのが真のプロフェッショナルである。その為にも科学的なツールを用いて保育現場の環境や子どもの育ちについてしっかりと評価していくことが重要だということをお話しいただいた。

保育者の集いでは、多くの来賓を迎え保育関係者への表彰が行われました。多くの人から祝福された表彰者の皆様は緊張しつつも、誇らしげな表情でした。

初日の最後は情報交換会。会場のいたるところで話に花が咲き、会の途中には有志による素晴らしい歌声も披露され、研修の疲れを癒してくれました。

二日目は、関西大学人間健康学部教授の山縣文治先生による「子ども・子育て支援新制度の私的解説～保育所の今後を展望する～」と題して講演が行われました。今、保育関係者が最も気になる「子ども・子育て

支援新制度」について、私的見解を含みながらもわかりやすくお話しいただきました。保育所の成り立ちや人口の増減など、データ等を使いながら、時にはクイズを織り交ぜわかりやすく説明していただきました。これから人口減少社会がますます進み、新制度の本格実施に向けて時間がなくなる中、我々保育関係者が乗り越えなければならない課題も多いが、未来の日本の為にこれからもしっかりと考え、行動し決断していくための指針をいただいたように感じました。

二日間にわたり開催された今年度の所（園）長研修会でしたが、会場いっぱい参加者にとって実りの多い時間となったと思います。今後とも、保育所（園）が幅広く子育てを支援する施設として、また地域に必要とされる施設となれるように、所（園）長は学び続けていく必要性を改めて感じる事が出来る研修会でした。

いわら保育園 園長 本田幸太郎



## 第 51 回 京築ブロック保育研究大会



平成 25 年 12 月 1 日（日）行橋市市民会館において第 51 回京築ブロック保育研究大会が多くの来賓の方々や関係者の方々にご出席いただき盛大に開催されました。大会テーマを「子どもの存在をしっかりと見つめよう」として、今後京築地区の抱える問題を包括的な議論とすべく、取り組みを進めていくことを地区の方に訴えました。

各地区代表による意見発表では、「保育園と小学校の連携について」(豊中市)「保育所における食育活動」(みやこ町)「父親としての子育てと保育園のつながり」(行橋市)について、貴重な取り組みが紹介されました。各地区で実践されている保育活動の内容は実に多彩であり、大変参考となりました。

記念式典では、京築地方保育協会岡村斉会長より来年度より議論が開始される地域版子ども子育て会議の重要性や地域格差を作らない子ども子育て新システムの実現に向け会員、関係者が精一杯の努力をしなければならないとのお言葉をいただきました。また、福岡県保育協会万田康会長からは、国において現在議論されている子ども子育て会議の状況及び保育の質を低減させない仕組み作りが重要とお言葉をいただきました。わたくしたち会員も関係者と真剣に議論し新しく始まる子ども子育て新システムがより良いものとなるよう一層の努力をしていかなければならないと感じました。

記念講演では、絵本作家のあべ弘士先生を講師にお招きし「動物家族に学ぶ子育て法」のタイトルで講演をしていただきました。現在、全国で一番有名な旭山動物園において飼育員を 25 年間勤務した後、絵本作家としてデビューした異色の経歴をもった大変ユニークな先生でした。お話しの中では、実際にアフリカ大陸を旅した時の貴重な写真や北極点に旅をしたと

きの実際の写真を交え、動物たちのみずみずしい生き方や子育ての方法について実に楽しくお話しを聞く事が出来ました。また、自らが書かれた絵本の裏話や絵本のすばらしさについてのお話もいただき実に楽しい講演会となりました。明日からも頑張る勇気をいただいた一日となりました。

京築地方保育協会



遠賀・中間地区保育協会

「一人ひとりが主体的に関わる研修会」を目指して

1 研修会のあり方を見直して

(1) これまでの研修会から見てきたこと

保育所保育指針改定に伴い、平成 21 年 7 月から平成 25 年 3 月まで、「遊びと育ち～遊びを通して多角的に～」というテーマで年 6 回、各保育所（園）から 1 名（合計 20 名）参加の継続研修を行ってきました。

この研修では、保育内容を交流しあったり、遊びエピソードの記述を通して自分自身の保育を振り返ったりしながら、「養護と教育」に基づいた子どもの遊びを探っていく事を目指してきました。参加する保育士の生き生きとした表情と意欲に満ちあふれた研修に対する姿勢は素晴らしいものでした。活発に意見を出し合い参加者一人ひとりが主体的に参加し学び合い、保育のおもしろさの醍醐味を何とか遠賀・中間地区保育協会の会員みなさんに伝えられないだろうかという思いで、これからの研修会の方向付けをすることにしました。

研修内容を整理し「研修体系」を組み直すこと、主任保育士の一人ひとりが研修リーダーとなり主体的に取り組んで行くことを柱におき、平成 25 年度、新たな遠賀・中間地区保育協会の研修会スタートを目標に主任保育士で話し合いを重ねていきました。

(2) あらたな研修体系を考える

主任会議では、研修体系を組み立てるにあたり、「一人ひとりが楽しく参加し、みんなで学び合い、高め合うことができる研修会」「実践に即した研修会」「遠賀・中間地区保育協会会員の全てが対象となる研修会」等、基本的な方針を決めていきました。一年間という時間をかけて、遠賀・中間地区保育協会の「研修体系」（別表参照）ができあがりました。

2 遠賀・中間地区保育協会「研修体系」をスタートして

平成 25 年度は、スキルアップ研修と継続研修を中心に進めてきました。スキルアップ研修では、経験年数を配慮した内容を精選したり、研修時間を夕方に行ったり、一人でも多くの保育士が参加しやすいように配慮してきました。また、継続研修では、PDC Aサイクルを意識し、参加する保育士の主体性を大切に進めていくように心掛けました。

毎月の主任会議では、各研修会の報告を行い共有化を図っています。報告の中で、回数を重ねることに活発に意見を出し合うようになり、研修内容も深まっていると感じています。しかし、現在の職員体制では、すべての研修に所属できず、共有できないカテゴリもある等の課題も見えてきました。また、今後の研修計画として、各カテゴリの中で学んだことを子どもたちに下ろし、その記録を持ちより検討し合っ、共有化を図り、次につなげていくという方向性を持っています。

3 おわりに

研修会を体系化して一年が過ぎようとしています。保育所は、子どもたちが心地よく気持ちよくそして安心して過ごせる場所です。絵本を読み聞かせる時、わらべ歌を歌いかける時、私たち保育士は、子どもの色々な表情を敏感にそして豊かに受けとめることができたらどんなにステキなことでしょう。そのためには、保育士の一人ひとりがお互いの感性を大切にして、認め合い、つながり合い、高め合う学びの場が必要だと考えます。遠賀・中間地区保育協会ではこれからも、一人ひとりの保育士が主体的に関わり、スキルアップすることを目指して、この取組みを続けていきたいと思っています。

〈遠賀中間地区保育協会研修会の目的〉

- ①研修や保育実践を通して、人間性及び保育の専門性を高める。
- ②保育内容に関する共通理解を図り、協働性を高める。

	担当	研修名	研修目的	平成 25 年度講師招聘研修
遠賀中間地区保育協会研修委員会	スーパーバイザー	副会長 ①保育基本研修 ・保育所保育指針 ・倫理綱領 (年 1 回)	保育士等としての基本的な心構えを学ぶ	5/17 上村初美先生 (倫理綱領等)
		主任 4 名 ②わらべ歌 手遊び歌研修 (年 4 回)	わらべ歌や手遊び歌の楽しさやぬくもりを知り保育に生かす	講師 担当主任保育士
		主任 4 名 ③絵本研修 (年 5 回)	子どもの興味や発達に応じた絵本の大切さを学ぶ	辻 洋一先生 「絵本との出会い子どもの輝く瞳に魅せられて」
		主任 4 名 ④運動遊び リズム遊び研修 (年 4 回)	発達に応じた運動遊びやリズム遊びについて学ぶ	5/27 田中 沙織先生 「発達に応じた運動遊びの重要性について」
		主任 4 名 ⑤絵画・制作研修 (年 5 回)	様々な素材に触れ豊かな感性や表現する力を学ぶ	7/9 緒方章嗣先生 筑豊地方保育協会研修会参加
	遠賀中間地区保育協会研修委員会	給食委員 主任 2 名 食育研修のみ ⑥食育研修 (年 3 回)	・食育の推進に向けて理解を深める ・調理技術を高め、給食内容の向上を図る	8/8 池上富子先生 「調理実習」
		⑦統合保育研修 (年 1 回)	支援の必要な子どもを理解し対応について学ぶ	8/20 山本友子先生 「支援の手引き」
		⑧乳児保育研修 (年 1 回)	乳児における専門的な知識や技術に関する資質向上を図る	7/25 菱谷信子先生 「乳児の発達理解及び保育環境」
		⑨主任研修 ・人材育成 ・家庭支援 (年 2 回)	保育リーダーとしての資質向上を目指す	9/9 金子恵美先生 「人材育成」
		⑩園長研修 (年 1 回)	新保育制度の研修	2/19 筑豊地方保育協会事務研修会

# 新園紹介

福津市 双葉保育園

双葉保育園は、社会福祉法人進知会が旧福津市立保育所を引き継いで、平成25年4月1日に新規開園した保育園です。

そのような経緯もあり、旧福津市立保育所が永年培ってきた伝統を大切にしながら、山と海に囲まれた福津市の豊かな自然を子ども達にたくさん体験させ、個性・月齢を考慮しながら、それぞれの月齢に応じた小さな自立を目指しています。

現在、敷地内に園舎の建て替えを検討中で、今年秋には新しい園舎に引越しできるのを楽しみにしています。

“そこに集う人々の心と心を繋ぎ、そこで遊ぶ子どもたちが感動を覚える”、そんな保育施設をきつと子どもたちが長い時間をかけて創っていってくれることと思います。

子ども達にいつも伝えている事柄の一つに、「一つ一つの出会いを大切に・・・。たとえどんなに小さな出会いであっても、その出会いがいつの日かきつとあなた達の人生に大きな宝物となってくることでしょう。」ということがあります。

このことを踏まえて、未来を担う子ども達が、友達や自然と戯れながら遊ぶ中で好奇心を育み、感性を磨き、挑戦する勇気や責任感を養い、自分なりの価値観を持つ「自立した個人」となり、家族や地域への愛情を持った大人になっていくことと思います。

これから益々、我々大人や保育所の役割は果てしなく大きなものとなってくるでしょう。



コラム

**1**回目  
あゆみ先生の  
気がかりなこと

さとるくんに整理整頓を  
身につけさせるために  
あゆみ先生が  
取り組んだこと  
**2**回目

★**3**回目  
さとるくんの乱暴な行動を  
やめさせるために  
あゆみ先生が  
取り組んだこと

さとるくんには、もう1つ気になる行動があります。それは、友だちを蹴ったり、たたいたり、かみついたり、と毎日のようにトラブル続きです。とくに朝の自由遊びのときに多いのです。楽しそうに遊んでいる子を見つけ、そこに行ってもちやを壊したりということがよく起こります。そこで、さとるくんの行動を以下のように記録してみました。

日時	きっかけ	さとるくんの行動	周囲の対応	気づき
3月7日 9:00	友だち3人が四角いスポンジで遊んでいる	3人のところに行き、ぶつかる	友だち：「もうやめて！」	さとるくんは、本当は、友だちとの遊びに入りたがっているのではないだろうか
9:05	スポンジがころげ落ちる	友だちのスポンジを取り上げる	友だち：「やめて!」「やめて!」	
9:10			あゆみ先生：「やめなさい」	
3月8日 9:00	昨日と同じように友だち3人が四角いスポンジで遊んでいる あゆみ先生：「さとるくん、いっしょに遊びたいの?」	「うん、そう」	あゆみ先生：「じゃあ、入れて、って言ったら?」	友だちと遊びたいとき、適切な方法で入り方をおしえればうまくいく
9:05		「入れて」	友だち「いいよ」	
9:20		友達との遊びが展開される	あゆみ先生「入れてもらえてよかったねえ」	

この記録からわかることは、仲間に入れてもらいたいとき、さとるくんは友だちを叩いたり、おもちゃを壊したりという不適切な方法を使っていることです。そこで、あゆみ先生は、「入れて」という言い方を教えてあげると、すんなりと遊びに入れ、その遊びは次々と発展していきました。

われわれは、子どもの攻撃的な行動にばかり注目し、それを止めるために叱りつけることをしがちですが、このように適切な行動を教えてあげることで、子どもの不適切な行動は目立たなくなっていきます。

保育園や学校の先生方といっしょに取り組んでみて、不適切な行動が起きたとき、すぐにそれをやめさせるよりも、しばらく待って、適切な行動が起きた瞬間に、それができたことをほめていった方が有効であることを確認しています。

- ペアレントトレーニングの考え方に基つけば、
- ①気がかりな行動が起きたときは、まずは、観察と記録。
  - ②不適切な行動をやめさせるより、適切な行動を身につけさせた方が有効
  - ③言葉かけは、「ゆっくり、はっきり、単純に」

以上のような取り組みによって、保育園での子どもたちの行動が落ち着いたものになり、保育士の先生方が子どもたちの活動をさらに展開される方向に持っていけることを願っています。

## 福田恭介 (ふくだ・きょうすけ)

1953年生まれ 60歳  
九州大学大学院博士課程心理学専攻修了  
(1986年 文学博士)  
2つの研究に従事、①「目(眼球運動、瞳孔運動、まばたき)は口ほどにものを言う」の本当か、②ペアレントトレーニングの考え方は保育園や学校の先生方にも役立つのか、を調べています。  
現在、福岡県立大学人間社会学部人間形成学科教授。

“第1回 九州保育三団体研究大会” 福岡県で開催!!

- とき 平成26年7月23日(水曜日)～25日(金曜日)
- ところ ヒルトン福岡シーホーク(福岡市中央区地行浜)

会員の皆様には、年度末で卒園・進級に向けての行事等で何かとお忙しいことと存じます。

日ごろより、多大なるご協力を頂いておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、今年度まで、九州の保育三団体でそれぞれ九州大会を開いておりましたが、平成26年度より、この三団体の研究大会等を一本化し、九州保育三団体研究大会として、その第1回大会を福岡県が開催することになっております。

福岡県保育協会では、昨年9月に各四地方の会長を中心として構成する企画委員会を立ち上げ、これまで、大会の趣旨や日程等からなる開催要綱を作成し、九州保育三団体協議会理事会に諮って、大会開催に係る事務を執り進めているところです。

この度の大会には、九州各県より1,800名を超す保育関係者にご参加いただき、盛大に開催することといたしておりますので、大会の成功に向けてのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

平成26年3月  
 福岡県保育協会会長 万田 康  
 (九州保育三団体研究大会実行委員長)  
 企画委員会委員長 半田 義文

会員の皆様へ(お知らせ)

4月から協会ホームページをリニューアルします。協会と会員の皆様、そして広く県民の皆様と繋ぐ情報の提供に努めますので、積極的にご活用ください。

さばこ  
 cavaco の ねいけ  
 ワークショップ

子どもたちの  
 想像力に  
 耳をすまそう

Vol.6

お正月、節分、ひな祭りなど・・・子どもたちとの季節の制作物、考えるのに苦労されていませんか?そんな時は少しその季節の行事の由来を考えながら創作を進めてみてはいかがでしょうか。

3月と言えば、ひな祭り、卒園式、春分の日・・・中でも子どもたちとはひな祭りの飾りを制作される園が多いのではないのでしょうか。ひな祭りと言えばひな人形ですが、なぜひな人形を飾るか、その由来をご存知でしょうか?

ひな祭りは古代中国の「上巳(じょうし)の節句」が日本の祓いの行事と結びついたものだと言われています。上巳とは、3月最初の巳の日のこと。日本では農耕の始まるこの時期に身のけがれを祓うため、紙の人形にけがれを移したあと、海や川に流していたそうです。始めは紙で作られていたものが次第に精巧なものへと変化し、流していたものが飾られるようになったと言われています。

つまり、おひなさまは人々が健やかに過ごすための身代わり守りから始まっているのです。そのように、子どもたちにも少し由来の話をする、可愛らしく、きらびやかに飾り付けるだけではなく、感謝の気持ちを込めることができるかもしれません。

さて、従来紙で作られていたというおひなさま、今回はお張子で制作する方法をご紹介します。材料は半紙、色のついた和紙、のり(4~5倍希釈した木工用ボンド)、水風船。水風船を膨らませたら、10センチ角程度にちぎった半紙をのりに浸して、水風船に貼っていきます。このとき、水風船を右上の写真のように紙コップに置いて作業をすると、制作を進めやすくなります。全体を3重くらいになるまで半紙を貼り重ねたら、今度は色和紙で着物を貼っていきます。目や鼻



などの顔のパーツは和紙を小さくちぎってから貼ってもいいですし、乾いてから書き加えても構いません。水風船の口の部分(写真の人形のおでこの部分)

を洗濯バサミでつまんで吊るし、丸1日ほど(雨の日でしたらもう少し長めに)乾かし、和紙がかかちかちに固まっているのが確認できたら、風船に針を入れてしばませ、張り人形から抜き取ります。抜き取った穴を和紙で埋めれば、完成です。

張子なので、とても軽く、和紙の素朴な素材感が可愛らしい人形となります。一クラス分の子どもたちのおひなさまを毬などの張子と一緒に吊るして飾れば柳川のおひなさま「さげもん」になり、中に豆電球を仕込めば、ほんのり光るランタン雛にもなり、ちょっとハイレベルな季節の飾りの出来上がりです(ランタンにする場合は、光を透過させるために和紙を薄めに重ねること、また電球の仕込みは危険のないようにご注意ください)。

山下麻里(やました・まり)

グラフィックデザイナー。九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻修了。2007年より九州大学大学院特任教授目黒実氏が主催する「子どもプロジェクト」に企画・デザイン等で参加する。在学中、ユニバーサルデザイン教育を通じた社会貢献活動プログラム[こどもたちのUD移動ミュージアム]にデザインで参加、同プロジェクトはグッドデザイン賞、キッズデザイン賞を受賞した。2012年、福岡市西区に「生の松原子どもスコール」をオープン。

【編集後記】

平成 25 年度も最後の月を迎えようとしています。今号の保育協会通信を発行する事で、まる 4 年間の活動を実施したことになります。そこで今回は、4 年間で振り返った編集後記としたいと考えています。

平成 22 年 4 月、福岡県保育所連盟・福岡県日本保育協会・福岡県私立保育園連盟の 3 団体が様々な議論をおこない合併し「一般社団法人福岡県保育協会」を発足させました。

これに合わせ広報部も一本化を図り、新しく保育協会通信を発刊する事になりました。さらに 23 年 4 月から「公益社団法人福岡県保育協会」として公益法人格を得ましたので、これまで以上に多くの方々に福岡県保育協会の活動や保育に関する情報提供を実施する事が必要となりました。広報誌を発行するにあたり広報部員の方々と広報会議を開き色々な議論をした上で広報誌を校正していくのですが、どこから手を付けてよいのか分からないくらい手探りの状態で作業を開始したことを思い出します。特に第 1 号を発刊する事には、大変苦勞をしました。名称が変更になったため今まで使ってきたロゴマークやデザインが使用不可能となってしまう、新しくロゴマークやデザインを作成しなければなりません。パソコンと格闘し色々覚えながらロゴマークの作成と紙面校正に努め、時には期限に遅れることもありましたが、なんとか無事に発行する事が出来ました。2 年目には、作業分担も上手く行くようになり大変ではありましたが期限内に作業が終了するようになってきました。3 年目には、紙面デザインの全面リニューアルを実施しました。このリニューアルで広報誌の名称「みつけた！」と名付けすっきりとしたデザインをデザイナーの方に作っていただきました。この年は、デザインの提供のみをおこなっていただきましたが、平成 25 年度には、広報部会長、事務局のご協力によりデザインに加え文章のレイアウトや全体のデザインもやっていただけるようになりました。デザイナーの方に広報部会にも一緒に参加していただき広報部会で表現したいことのイメージを伝え毎号、よい広報誌が発行できていると感じています。プロに脱帽の 1 年間でした。現在では、役割分担も適切におこなわれ広報部員も大助かりです。また、広報誌にコラムを掲載することも現在おこなっています。今後は皆さまにより親しみやすい紙面を広報部会で検討し、より良い広報誌として今後も頑張っていこうと思っています。

広報部

発行日：平成 26 年 3 月 20 日 発行者：万田 康 編集者：半田 義文

発行元：公益社団法人 福岡県保育協会 春日市原町 3 丁目 1-7

TEL：092-582-7955 FAX：092-582-7956

## 保育園および園児をさまざまなリスクからサポートします

保育園経営には、さまざまなリスクが伴います。(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンボでは、保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。



### 全私保連保険制度

### 園児総合保障共済制度

「保育園賠償責任保険」「保育園児団体傷害保険」「特別保育事業賠償責任保険」など、保育園経営に必要な不可欠な保険をラインナップしています。また、それらを総合的に補償するセットプランもご用意しております。

保育園児を 24 時間補償する共済制度です。保育者にとっては一般に比べて割安な掛金で補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先どうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定  
東京海上日動火災保険株式会社  
三井住友海上火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンボ  
〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-11-10 全国保育会館内  
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

(引受保険会社)  
(幹事保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社  
担当課：公務第二部 公務第一課  
TEL：03-3515-4133  
(共同引受保険会社) 三井住友海上火災保険株式会社

このご案内は全私保連保険制度・園児総合保障共済制度の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。